

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																											
福岡医療秘書福祉専門学校	昭和62年12月24日	岩本 克也	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-16-22 (電話) 03-6734-2939																											
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																											
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																											
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																										
教育・社会福祉	教育社会福祉専門課程	介護福祉科	平成12年文科科学省告示第15号	—																										
学科の目的	「世の中の困難を希望に変わる」をミッションとし、本学科は、学校教育法に基づき、医療福祉業界関連分野において活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技術を教授することを目的としている。																													
認定年月日	平成28年2月19日																													
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																								
2	11	61	35	15	0	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																									
80人	44人	0人	5人	8人	13人																									
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は5点法とする。 教科ごとに定められた評価方法で評価する際、100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入し、5点法に換算する。その後、授業態度、出席状況を考慮しランクの上下を認める。																										
長期休み	■学年始:4月1日～4月10日 ■夏季:8月10日～8月31日 ■冬季:12月27日～1月8日 ■学年末:3月6日～3月31日		卒業・進級条件	教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格した者について、平常の成績及び品行を斟酌して認める。																										
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡ならびに三者面談を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる全教職員でサポートして		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 地域住民への介護講座 認知症啓発イベントなどへの参加協力 ■サークル活動: 有 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)																										
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成28年度卒業生) 介護老人保健施設、介護老人福祉施設、障害者施設、他介護サービス事業所 ■就職指導内容 1年次後期～2年次まで週1回就職指導の時間を設けた。(進路選択に関するアドバイス含め、模擬面接や論文指導等実施) ■卒業生数 : 16 人 ■就職希望者数 : 15 人 ■就職者数 : 15 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 94 % ■その他 (平成28年度卒業生に関する平成29年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護福祉士</td> <td>①</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>福祉住環境コーディネーター2級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>介護報酬請求事務</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>中高老年期運動指導士</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>介護予防運動スペシャリスト</td> <td>③</td> <td>2人</td> <td>2人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するが記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)</p> <p>■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等</p>			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	介護福祉士	①	16人	16人	福祉住環境コーディネーター2級	③	12人	9人	介護報酬請求事務	③	11人	9人	中高老年期運動指導士	③	3人	3人	介護予防運動スペシャリスト	③	2人	2人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																											
介護福祉士	①	16人	16人																											
福祉住環境コーディネーター2級	③	12人	9人																											
介護報酬請求事務	③	11人	9人																											
中高老年期運動指導士	③	3人	3人																											
介護予防運動スペシャリスト	③	2人	2人																											
中途退学の現状	■中途退学者 3 名 平成28年4月1日時点において、在学者44名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者41名(平成29年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由等 ■中退防止・中退者支援のための取組 4月より個人面談を実施し、個々の悩みを早期に発見・解決する。欠席が続く生徒については、本人へのごまめな電話連絡を行いながら、同時に早い段階から保護者と情報共有していくことで、ご協力を仰ぐ。中退者への支援としては、退学後の進路についても出来るだけ明確な方向性が見いだせるよう二重面談を繰り返す。		■中退率 6.8 %																											
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度、経済支援制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																													
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																													
当該学科のホームページURL	http://www.sanko.ac.jp/fukuoka-med/																													

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文科科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科科第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」としては、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、賃金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

<p>1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係</p>																											
<p>(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針</p> <p>福祉施設、関連協会等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や目標検定設定、授業方法の改善・工夫に生かす。</p> <p>(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項 (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項 (3)教科書・教材の選定に関する事項 (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項</p> <p>また介護実習を通じ、福祉現場における介護従事者として実践的な技術を習得するとともに、業界の動向や求められる人材を把握するため、研究会等との連携を図ることで、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容シラバスやカリキュラムに反映する。また介護福祉士国家資格取得に向けて学習指導方法の見直し、改善に努めることも目的としている。さらに実習先である福祉施設に対し、事前・事中・事後訪問の強化や実習指導者交流会での合同連絡会において、学生に不足する、あるいは求められている能力を把握する。これらのことにより得た結果も、授業方法の改善・工夫に生かす。</p>																											
<p>(2)教育課程編成委員会等の位置付け</p> <p>教育課程編成委員会構成員は、福岡医療秘書福祉専門学校と医療機関施設の外部役員から成るものとし、審議を通じて示された施設等の要請その他の情報・意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。</p> <p>【教育課程編成の基本方針決め・前年の問題点抽出】 本学のカリキュラム、取り組み、人材育成像など共有を行わせていただいた上、外部委員より、福祉施設における必要な人材についてお話を頂いた。その人材育成に向けての専攻分野に関する動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒヤリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。さらに、前年度の問題点をピックアップし、業界の外部委員からの見識のある改善意見も集約する。</p> <p>↓</p> <p>【教育課程編成の科目詳細決め】 委員会構成員の中の福岡医療秘書福祉専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、集約した改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。</p> <p>↓</p> <p>【MS委員会(各医療秘書福祉専門学校代表教員による分野会議)にて教育課程編成の決定】 委員会構成員の中の福岡医療秘書福祉専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、再度、MS委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。</p>																											
<p>(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">平成29年4月1日現在</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>藤野 裕子</td> <td>公益社団法人 福岡県介護福祉士会 副会長</td> <td>平成29年1月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>池 芳江</td> <td>社会福祉法人 シティケアサービス シティケア博多 研修室室長</td> <td>平成29年1月1日～平成30年3月31日(2年)</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>曾田 隆太</td> <td>学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 副校長</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>吉留 朝美</td> <td>学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 教務課長</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>西川 聖子</td> <td>学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 介護福祉科教務主</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。 ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>				名前	所属	任期	種別	藤野 裕子	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 副会長	平成29年1月1日～平成30年3月31日(2年)	①	池 芳江	社会福祉法人 シティケアサービス シティケア博多 研修室室長	平成29年1月1日～平成30年3月31日(2年)	③	曾田 隆太	学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 副校長			吉留 朝美	学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 教務課長			西川 聖子	学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 介護福祉科教務主		
名前	所属	任期	種別																								
藤野 裕子	公益社団法人 福岡県介護福祉士会 副会長	平成29年1月1日～平成30年3月31日(2年)	①																								
池 芳江	社会福祉法人 シティケアサービス シティケア博多 研修室室長	平成29年1月1日～平成30年3月31日(2年)	③																								
曾田 隆太	学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 副校長																										
吉留 朝美	学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 教務課長																										
西川 聖子	学校法人三幸学園 福岡医療秘書福祉専門学校 介護福祉科教務主																										
<p>(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期</p> <p>年間開催数:2回 開催時期:3月、11月</p> <p>(開催日時) 第1回 平成29年3月7日 14:00～16:00 第2回 平成29年11月11日 開催予定</p>																											
<p>(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況</p> <p>・カリキュラムについて(人間と社会の領域のうち、人間と社会に関する選択科目について) ⇒介護福祉士が介護業界でのリーダー的存在になることを鑑み、科目としてリーダーシップ論を教科として取り入れている。介護福祉士の視点から専門職としての意見が言える人物に教育していくことが望まれるので、授業だけでなく、いろいろな場面での指導が必要。シラバスにも組み込んでいく。</p> <p>・実習の組み立てについて ⇒現在の組み立て(通所サービス実習→施設実習→居宅介護実習)で問題ない。しかし、介護の現場に必要な、コミュニケーションが苦手な学生もいる。一人一人に合わせた指導を行うためには、施設と学校の密な情報交換などの連携は欠かせない。今後もしっかりと連携をとっていくことの確認。</p> <p>・本校における教育指導課題の確認と現場からの意見交換 ⇒学校現場における課題に対する現場意見を頂戴し、具体的な改善案の検討を進める。授業シラバスへの反映と併せ、学校における福祉従事者教育の本質(社会人・福祉従事者)を考える機会とした。</p>																											

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係																	
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 様々な介護ニーズに対応できる介護福祉士を目指すためには、単なる理論学習や演習による応用思考の訓練と習得だけでなく、学習した専門知識や技術を体験学習つまり介護福祉実習を通して具体的に体得して実行していく能力を身に付ける必要がある。そのためには、様々な利用者、多様な場での実践を通して基本技術の確認、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する必要がある、これこそが介護福祉実習の重要な意義の一つであると考ええる。 実習目的は以下の通りとする。 利用者や多職種者との関わりを通じて、人間の尊厳や個別ケアの重要性を学ぶとともに、学内で学んだ知識や技術を実践の場で統合・活用し、介護・福祉の理念の基に具体的な介護が提供できる実践力を習得する。</p>																	
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容 実習前：実習配置の決定後、開始2週間前に教員と施設指導者と打ち合わせ（実習要項説明・学生プロフィール説明・実習内容の確認・実習における事前学習や諸注意の確認） 実習中：週1回以上の施設巡回指導及び施設指導者との学生状況の情報共有、帰校日指導 実習後：実習施設ごとに実習記録送付及び評価、学生間による実習での学びの共有と課題の明確化、実習報告会の開催（到達目標） ・生活歴、おかれた環境（法制度、人間関係を含む）、生活リズム、医学的観点など、様々な視点から情報を収集し、尊厳ある利用者の個性が理解できる。 ・利用者の社会参加を大きな目標とし、尊厳の保持の観点から、安全・安心・自立支援に基づいて収集した情報を分析し、生活上の課題を明確にし、介護計画（個別援助計画）を立案することができる。 ・基本技術を応用し、対象に応じた日常生活援助が提供できる。 ・実践した介護計画（個別援助計画）を利用者の反応から評価し、修正していくことができる。</p>																	
<p>(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護実習ⅠA</td> <td>介護実習ⅠA-① 実習という一連の活動を通して、実習における基本的態度を身に付けるとともに、よい人間関係を築くにはコミュニケーションが重要であることを体験学習していく。 介護実習ⅠA-② 利用者とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の実践を通して、情報を収集し利用者理解の実際を学習していく。</td> <td>シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園</td> </tr> <tr> <td>介護実習ⅠB</td> <td>生活の場である利用者の様々な環境を理解し、利用している施設が提供している介護サービスの特徴、多職種チームによるサービス提供の実際を学習していく。</td> <td>シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園</td> </tr> <tr> <td>介護実習ⅡA</td> <td>受け持ち利用者のアセスメント、計画立案までの介護過程の流れを実施する。また計画を振り返りながら、安全・安心・自立支援を目指した介護の在り方を考えるとともに、施設指導者や関係他職種者への報告・連絡・相談を通して、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。</td> <td>シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園</td> </tr> <tr> <td>介護実習ⅡB</td> <td>受け持ち利用者のアセスメント、計画立案、実施、評価、修正という介護過程一連の流れを実施する。また計画や実施内容を振り返りながら、安全・安心・自立支援を目指した介護の在り方を考えるとともに、施設指導者や関係他職種者への報告・連絡・相談を通して、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。</td> <td>シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園</td> </tr> </tbody> </table>			科目名	科目概要	連携企業等	介護実習ⅠA	介護実習ⅠA-① 実習という一連の活動を通して、実習における基本的態度を身に付けるとともに、よい人間関係を築くにはコミュニケーションが重要であることを体験学習していく。 介護実習ⅠA-② 利用者とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の実践を通して、情報を収集し利用者理解の実際を学習していく。	シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園	介護実習ⅠB	生活の場である利用者の様々な環境を理解し、利用している施設が提供している介護サービスの特徴、多職種チームによるサービス提供の実際を学習していく。	シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園	介護実習ⅡA	受け持ち利用者のアセスメント、計画立案までの介護過程の流れを実施する。また計画を振り返りながら、安全・安心・自立支援を目指した介護の在り方を考えるとともに、施設指導者や関係他職種者への報告・連絡・相談を通して、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。	シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園	介護実習ⅡB	受け持ち利用者のアセスメント、計画立案、実施、評価、修正という介護過程一連の流れを実施する。また計画や実施内容を振り返りながら、安全・安心・自立支援を目指した介護の在り方を考えるとともに、施設指導者や関係他職種者への報告・連絡・相談を通して、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。	シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園
科目名	科目概要	連携企業等															
介護実習ⅠA	介護実習ⅠA-① 実習という一連の活動を通して、実習における基本的態度を身に付けるとともに、よい人間関係を築くにはコミュニケーションが重要であることを体験学習していく。 介護実習ⅠA-② 利用者とのコミュニケーションの実践、生活支援技術の実践を通して、情報を収集し利用者理解の実際を学習していく。	シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園															
介護実習ⅠB	生活の場である利用者の様々な環境を理解し、利用している施設が提供している介護サービスの特徴、多職種チームによるサービス提供の実際を学習していく。	シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園															
介護実習ⅡA	受け持ち利用者のアセスメント、計画立案までの介護過程の流れを実施する。また計画を振り返りながら、安全・安心・自立支援を目指した介護の在り方を考えるとともに、施設指導者や関係他職種者への報告・連絡・相談を通して、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。	シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園															
介護実習ⅡB	受け持ち利用者のアセスメント、計画立案、実施、評価、修正という介護過程一連の流れを実施する。また計画や実施内容を振り返りながら、安全・安心・自立支援を目指した介護の在り方を考えるとともに、施設指導者や関係他職種者への報告・連絡・相談を通して、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。	シティケア博多・けやき・宗像ア コール・ニューライフ須恵・サンライ フ陽光苑・むさし苑・順和・福岡愛 心の丘・新宮偕同園															

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係																									
<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 実践的かつ専門的な職業教育を実施し、「相手のこうして欲しいを理解し、自ら考え自ら行動できる人材」を育成していくため、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下のとおり教員研修の環境を整える。 ・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修 ・指導力の修得・向上のための研修 ・アクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修 なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるにあたり諸規定に定められている。</p>																									
<p>(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等 1)講演「医療福祉現場で求められる人材について」(平成28年1月12日) (株式会社日本教育クリエイティブ 人事採用担当 永光達人氏) 2)講演「医療・福祉業界の現状と採用状況について」(平成28年7月22日) (医療法人聖峰会 聖峰会マリン病院 事務次長 井上裕彦氏) 3)講演「医療福祉業界理解について」(平成29年1月10日) (株式会社日本教育クリエイティブ 人事採用担当 永光達人氏) 4)講演「医療福祉業界が求める人材と採用について」 (医療法人社団廣徳会 岡部病院 採用課 糸山龍介氏) ②指導力の修得・向上のための研修等 1)アクティブラーニング研修 ・アクティブラーニングの手法を応用した模擬授業の実践研修(平成28年3月29日) 2)発達障害の学生への関わりを学ぶ研修(平成28年8月25日) ・発達障害の特性と合理的配慮を学ぶ教務研修 3)アクティブラーニング研修 ・アクティブラーニングの手法と新年度授業実施におけるシミュレーション研修(平成29年度3月30日) 4)クラス担任教務研修(平成29年8月3日) ・クラス運営の方法及び担任指導スキルアップ研修 5)専門学校生理解研修(平成29年8月28日) ・高校生の学びのニーズや学んでいる環境や進学現状等語まえた生徒理解のための研修</p>																									
<p>(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 アクティブラーニング研修(平成30年3月29日) ・アクティブラーニングを取り入れた際の効果測定とその方法について ②指導力の修得・向上のための研修等 教職員全体研修(平成30年4月4日) ・学校運営における基本的な教務指導について</p>																									
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
<p>(1)学校関係者評価の基本方針 学校関係者として、医療福祉分野の業界関係者及び卒業生、保護者、地域住民等とともに、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善の参考とする。 学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。</p>																									
<p>(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1)教育理念・目標</td><td>(1)教育理念・目標</td></tr> <tr><td>(2)学校運営</td><td>(2)学校運営</td></tr> <tr><td>(3)教育活動</td><td>(3)教育活動</td></tr> <tr><td>(4)学修成果</td><td>(4)学修成果</td></tr> <tr><td>(5)学生支援</td><td>(5)学生支援</td></tr> <tr><td>(6)教育環境</td><td>(6)教育環境</td></tr> <tr><td>(7)学生の受入れ募集</td><td>(7)学生の受入れ募集</td></tr> <tr><td>(8)財務</td><td>(8)財務</td></tr> <tr><td>(9)法令等の遵守</td><td>(9)法令等の遵守</td></tr> <tr><td>(10)社会貢献・地域貢献</td><td>(10)社会貢献・地域貢献</td></tr> <tr><td>(11)国際交流</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※(10)及び(11)については任意記載。 (3)学校関係者評価結果の活用状況 各項目ごとに話し合われた評価をまとめ、改善点について「短期・中期・長期」の視点より分類し、短期目標についての改善点について検討したうえで、検討内容について次回学校関係者評価委員会へ提出することとする。 (1)教育目標・理念【改善点】自ら考えて行動できる学生の育成【活動状況】「相手の求めているものを理解し、自ら考え行動できる学生を育む」ことを人材育成方針とし、クラス委員を中心とした学生による学生主体のクラス運営を行っている。継続して指導していく。 (3)教育活動【改善点】現場との連携の強化【活動状況】地域密着型の施設の管理者、施設長経験者による講話の実施。介護福祉士に求める知識だけでなく、人間性などところの部分についてお話しいただいた。【活動状況】被災地へのボランティアを通して、生活支援とは何かを考え、非日常のための日常とは何か危機管理を含めて学ぶ機会を設けた。 (10)社会貢献・地域貢献【改善点】生徒へのボランティア活動の提供の強化【活動状況】夏祭りや敬老会へのイベント参加だけでなく、入所者の日常生活の中でのボランティアを取り入れている。そのことにより、より将来像をイメージしやすく、卒業後現場での即戦力ともなり得ると考える。</p>		ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標	(2)学校運営	(2)学校運営	(3)教育活動	(3)教育活動	(4)学修成果	(4)学修成果	(5)学生支援	(5)学生支援	(6)教育環境	(6)教育環境	(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集	(8)財務	(8)財務	(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守	(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献	(11)国際交流	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標																								
(2)学校運営	(2)学校運営																								
(3)教育活動	(3)教育活動																								
(4)学修成果	(4)学修成果																								
(5)学生支援	(5)学生支援																								
(6)教育環境	(6)教育環境																								
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集																								
(8)財務	(8)財務																								
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守																								
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献																								
(11)国際交流																									
<p>(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">平成29年4月1日現在</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小田 商平</td> <td>医療法人 井上会 介護老人保健施設 サンライフ陽光苑</td> <td>平成29年4月～平成30年3月</td> <td>業界関係者委員</td> </tr> <tr> <td>藤田 憲子</td> <td>福岡興業株式会社 エリアチーフ</td> <td>平成29年4月～平成30年3月</td> <td>地域住民委員</td> </tr> <tr> <td>毛利 麻美</td> <td></td> <td>平成29年4月～平成30年3月</td> <td>卒業生委員</td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。 (例)企業等委員、PTA、卒業生等</p>		名前	所属	任期	種別	小田 商平	医療法人 井上会 介護老人保健施設 サンライフ陽光苑	平成29年4月～平成30年3月	業界関係者委員	藤田 憲子	福岡興業株式会社 エリアチーフ	平成29年4月～平成30年3月	地域住民委員	毛利 麻美		平成29年4月～平成30年3月	卒業生委員								
名前	所属	任期	種別																						
小田 商平	医療法人 井上会 介護老人保健施設 サンライフ陽光苑	平成29年4月～平成30年3月	業界関係者委員																						
藤田 憲子	福岡興業株式会社 エリアチーフ	平成29年4月～平成30年3月	地域住民委員																						
毛利 麻美		平成29年4月～平成30年3月	卒業生委員																						
<p>(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 H29.7月公開 (ホームページ) < 広報誌等の刊行物 ・ その他()) URL:http://www.sanko.ac.jp/fukuoka-med/</p>																									

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を実施することで、学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や学校運営の円滑化につなげる。また、入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2) 各学科等の教育	●三幸学園の教育 ●学科・専攻紹介 ●資格・就職
(3) 教職員	●講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	●学内店舗実習 ●インターンシップ
(5) 様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●特別ゼミ ●企業・地域コラボレーション
(6) 学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7) 学生納付金・修学支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8) 学校の財務	●監事監査報告書 ●資金収支計算書 ●消費支出計算書 ●貸借対照表 ●財産目録
(9) 学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:<http://www.sanko.ac.jp/fukuoka-med/>

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 介護福祉科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			人間の尊厳と自立	代表的な社会福祉の理念・思想・制度に触れながら、サービス利用者をひとりの人間としてとらえることの大切さや、福祉の専門職として必要な姿勢について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			人間関係とコミュニケーション	人間関係の形成やコミュニケーション技術を学ぶとともに、介護福祉士が主に対象とする高齢者や障がい者の心理についても理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			介護実習ⅠA	利用者とのコミュニケーションおよび生活支援技術の実践を通して、情報を収集し利用者理解の実際を体験学習する。	1前	120	4			○	○	○			○
○			こころとからだのしくみⅡ	基礎的知識の理解を確認しながら、身支度・移動・食事などの介護の場面に円滑につながれるように学ぶ。	1前	60	4	○			○			○	
○			介護の基本Ⅰ	介護を必要とする人を生活の観点から理解を深めることで人間の多様性及び高齢者の暮らしの実際や障害がある人への理解へ繋げ、介護を必要とする人の生活環境の考え方を理解する。	1通	60	4	○			○			○	
○			コミュニケーション技術	対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について理解し、具体的な利用者・家族に対する技法ならびにチームとしての他職種間でのコミュニケーションについても学ぶ。	1通	60	4	○	△		○			○	
○			生活支援技術(移動・排泄)	移動における技術の根拠の理解と基本技術から状況に応じた応用力を学び。また、排泄の基本技術を習得し、利用者の立場に立ったよりよい排泄の支援を考え実践する。	1通	60	4	△	○		○			○	
○			生活支援技術(清潔)	その人がその人らしく生活するための衛生管理と楽しみとなることを目指した身支度の介護について学ぶ。	1通	60	4	△	○		○			○	
○			生活支援技術(食事・睡眠)	栄養と食事の基礎知識を学び、咀嚼・嚥下障害等で介助を必要とする利用者の状態に応じた食事介護およびご利用者の心身状況や個別性に応じた臨機応変な安眠のための技術を学ぶ。	1通	60	4	△	○		○			○	

○		介護過程総論	学習してきた知識や技術を統合して、利用者に求められる支援を導くためには介護過程という思考の展開が必要である。この科目で「物事を進める際の考え方」を習得する。	1通	60	4	○	△	○	○								
○		介護総合演習 I	講義や生活支援技術などの演習で学んだことを、各実習目標及び実習施設で役立てられるように講義・演習を中心に、その方法・手段を学習する。	1通	60	4	△	○	○	○								
○		認知症の理解	認知症ケアの歴史や理念を基に認知症高齢者の現状・行政上の視点から、介護の支援についての知識・理解を深め、「共に生きる」という概念を介護実践に生かせるように学ぶ。	1通	60	4	○		○	○								
○		こころとからだのしくみ I	こころのしくみ・からだのしくみを学び、介護を必要とする人への理解を深め、専門職としての介護者の在り方が思考できるようになる。	1通	60	4	○		○	○								
○		医療的ケア I (講義)	医療的ケアを学ぶ意義を理解し、そのうえで医療的ケアを安全かつ適切に実施するための土台となる基礎的知識を学ぶ。	1通	75	5	○		○	○								
○		介護過程各論 I	介護実習で経験したさまざまな介護場面を振り返り、介護の実践過程を構成する要素についての理解を深める。	1後	30	2	△	○	○	○								
○		介護実習 II A	介護過程のアセスメント・計画立案までを通して、尊厳の保持の観点から、利用者の個別性とは何か理解していく。	1後	120	4			○	○	○	○						
○		障害の理解 I	障害の概念や基礎理念を学び、介護支援につなげて思考できるようにする。また、障害に対する医学的知識を習得することで、基礎的理解を深めていく。	1後	30	2	○		○	○								
○		医療的ケア II (演習)	「喀痰吸引」「経管栄養」「救急蘇生」において、シミュレーションを使用し演習を行い、利用者の心身の状況の観察、看護師との連携・医師への報告など、一連の流れを学ぶ。	1後	15	1		○	○	○								
○		生活と地球社会	現在の国際社会において、特に関心が寄せられている事柄を取り入れ、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える。	2前	30	2	○		○	○								
○		生活と職業	職業を持ち、かつ家庭生活を営もうとするとき、ライフステージの様々な場面で起きてくる多くの問題にどう対処していけばよいのか、方向性を示していく。	2前	30	2	○		○	○								
○		介護実習 I B	生活の場である利用者の様々な環境を理解し、利用している施設が提供している介護サービスの特徴、多職種チームによるサービス提供の実際を学習していく。	2前	60	2			○	○	○	○						

○		介護実習ⅡB	介護過程の一連の流れを実施することで、安全・安心・自立支援を目指した介護の在り方を考える。また、生活支援チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。	2前	150	5				○		○	○		○
○		障害の理解Ⅱ	障害の基礎的理解をもとに、障害のある人に対する生活支援について考えることができ、また連携や協働の必要性や家族の支援についても理解を深める。	2前	30	2	○			○		○			
○		社会の理解	人間の生活が社会や様々な制度との関係性を持ちながら営まれていること、また、介護保険制度・障害者総合支援法・関連する諸制度の創設背景や、その目的について理解する。	2通	60	4	○			○					○
○		介護の基本Ⅱ	多様な介護ニーズへ適切に対応するための介護サービスの特徴を知る。又、多様な介護現場で利用者の生活の安全を守るべくセーフティマネジメントを展開するための基礎的な力を養う。	2通	120	8	○	△		○		○			
○		生活支援技術(生活)	その人らしい生活サイクルを構築していくことは、利用者やその家族の生活をメリハリのあるものとし、人としての尊厳を保持していくことに繋がることを学習する。	2通	60	4	△	○		○		○			
○		生活支援技術(家事・終末期)	利用者の生活を継続させるための様々な家事援助技術を習得する。および終末期の理解に立ち、QOLを高める身体・生活援助やコミュニケーション技術を習得する。	2通	60	4	△	○		○		○			
○		介護過程各論Ⅱ	介護実習で経験した介護過程の実践的展開を振り返ることで、介護とは何か、よりよい介護を提供するという事はどういうことなのか、自己の介護観の形成へとつなげる。	2通	60	4	△	○		○		○			
○		介護総合演習Ⅱ	介護実践で知識を統合するための手段や方法を介護実習の段階を追って実践し、社会に求められる介護福祉士の役割と自立支援に向けた他職種協働の意義と役割を理解する。	2通	60	4	△	○		○		○			
○		発達と老化の理解	人が誕生し、加齢とともに成長・発達・成熟していく過程を理解する。また、老化による心理面・疾患等を学び、専門職としての介護実践につなげていく。	2通	60	4	○			○		○			
○		家政学入門	家庭経営を科学的に理解させ、家庭を構成する家庭を構成する家族形態に合った健康維持の知識と技術を身に付けていく。	2後	30	2	○			○					○
○		リーダーシップ論	介護サービスの高度化対応やリスクマネジメント、専門職としてのキャリアアップの必要性などを理解する。	2後	30	2	○	△		○		○			

合計				32								科目	1890時間(111単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
指定科目全て履修（3分の2以上の出席・介護実習においては5分の4以上の出席、及び成績評価3以上）、学生にふさわしい就学態度が卒業・履修要件となる。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。